
平成22年度
豊中市立図書館評価システム
自己点検報告書

平成23年（2011年）12月

豊中市立図書館

1. この報告書について

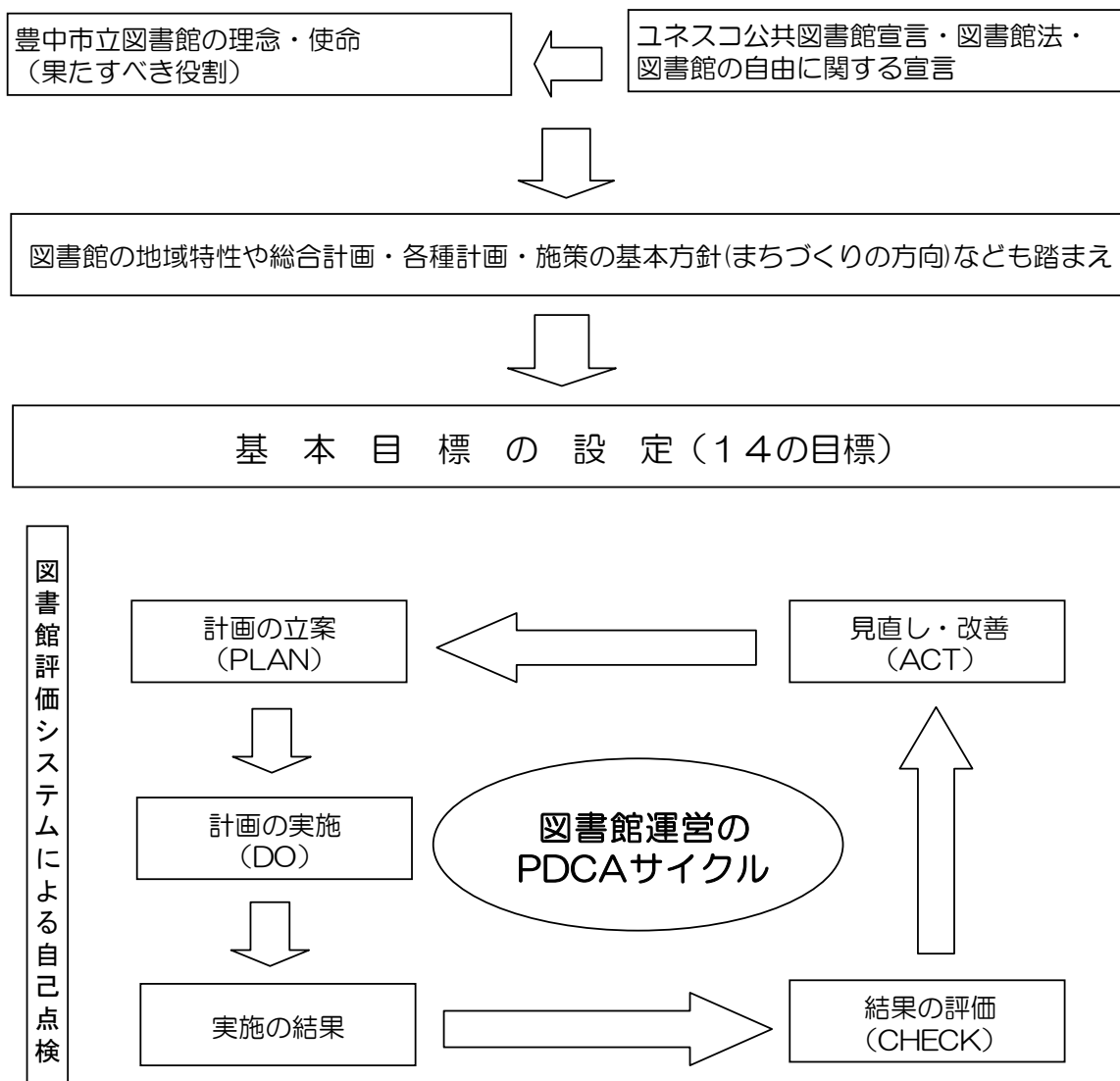
この報告書は、「豊中市立図書館評価システム評価表 リーディング項目」により、平成22年度の図書館運営を振り返り、自己点検の分析及び評価結果をまとめたものである。豊中市立図書館協議会より提言をいただいた「図書館評価のあり方について」に基づき、効果的・効率的運営と、より一層の図書館サービスの向上をめざして、自己点検と外部評価を実施している。

この自己点検及び評価結果に基づき、業務の改善及び効率化並びに市民サービスの向上に、取り組んでいくものとする。

2. 図書館評価システムの体系

本システムの実施にあたっては、14の基本目標を設定し、中項目・小項目ごとに自己点検を行い、進捗管理と内容の見直し等を行っていく。

具体的には、PDCAサイクル（計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Act)）を軸に、小項目を基本評価項目と位置づけ、評価分析を行い、図書館活動全体の自己点検を実施するとともに、図書館評価の的確なプロジェクト管理を行い、効率的・効果的な図書館運営の実現をめざすものである。



3. 自己点検結果

平成22年度自己評価するにあたって

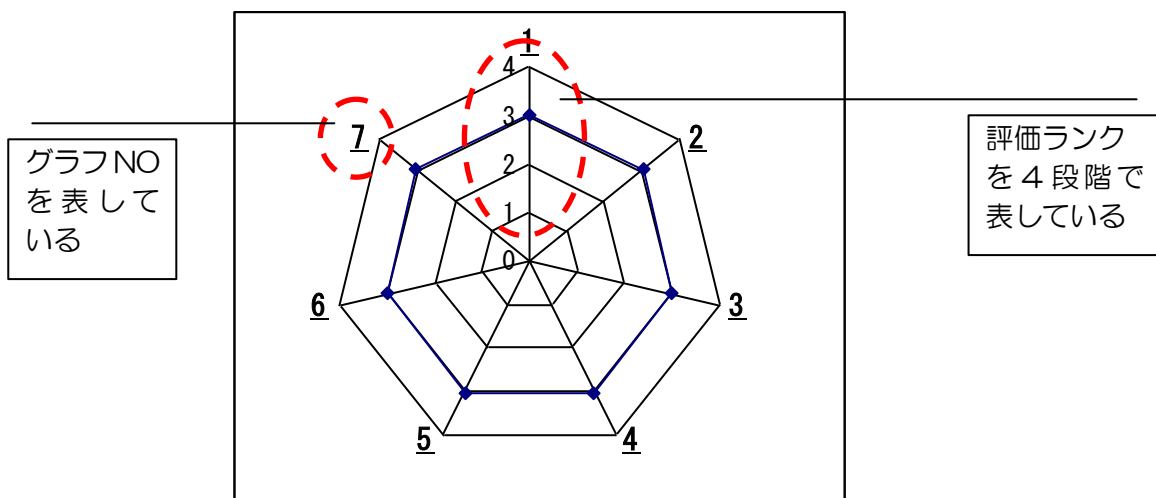
今回、評価を実施するにあたっては、次の3点を参考指標とし、下記表の評価基準に基づき、各中項目及び小項目に対して、相対評価を実施した。

○相対評価の参考指標

- (1) 目標値に対する達成度
- (2) 全国平均値（全国人口30万以上の65市区（ただし、政令指定都市は除く。）との比較
※全国平均値（「日本の図書館 統計と名簿2010」 発行（社）日本図書館協会を参照）
※なお、参考ではあるが、本市図書館の全国的な位置づけは、市民一人当りの蔵書冊数としては31位、市民一人当りの貸出冊数としては9位となっている。
- (3) 平成21年度から平成22年度の経年変化の平均値との比較

評価 ランク	評価基準
4	(1) 又は (2) の実績値を基準とし、当該実績値を達成した。
3	(1) 又は (2) の実績値を達成できなかったが、当該実績値の8割以上は達成している。
2	(1) 又は (2) の実績値を達成できず、当該実績値の8割未満であった。
1	取り組んでいない。

自己評価の結果は、中項目を評価の達成基準とし、次頁以降で「経営・運営・管理状況に関する評価」と「図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」に分けて、レーダーチャート図により、各中項目の達成状況とパワーバランスを分析している。



I-1. 経営・運営・管理状況に関する評価

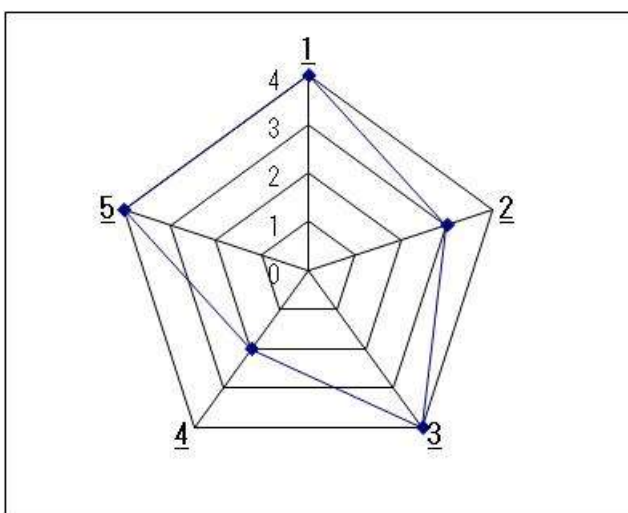
中項目「図書館として適切な経営が行われているか」（グラフNO1）は、評価ランクが前回評価の「3」から「4」となった。前回の評価結果に基づいて改善に取り組んだ結果を反映したものである。研修成果の情報共有の仕組み作りが定着し、図書館が直面する課題に関する研修受講と情報共有を、業務改善につなげていけるよう努めている。とくに、レファレンス研修の実施や、職員研修所の研修支援制度を活用した、「図書館司書専門講座」の受講は、人材育成の観点から有効であった。今後も業務のスキルアップにつながる研修充実とともに、図書館サービスの今後のあり方に関わるテーマについて、研修の実施・受講をすすめていきたい。「図書館の数、配置の適切さ」においては、南部地域（庄内・庄内幸町）における図書館サービスの見直しを行い、庄内幸町図書館の機能変更について、「学校図書館支援ライブラリー」を設置するよう方向性を固めた。さらに吹田市と市境の各3館において館を限定して広域利用の協定を結び、図書館未整備地域の市民の利便性向上への取組みをすすめた。

中項目「市民にとって質の高いサービスが提供されているか」（グラフNO2）が、前回評価ランク「2」から今回「3」に上がったことについては、平成20年度実施の「市民・利用者アンケート調査」に現れた祝日開館の需要の高まりを受け、平成21年度に検討を行い、平成22年度当初から地域館4館（岡町・庄内・千里・野畑）の祝日開館実施につなげたことを反映したものである。

また、中項目「市民参画による運営が図られているか」（グラフNO3）は、豊中市立図書館評価システムに基づいた図書館運営をすすめていることから、評価ランク「4」となっている。

中項目「図書館の情報発信・PRは十分にされているか」（グラフNO4）が、評価ランク「3」から今回「2」に下がったことについては、紙媒体での広報活動が減少したことなどによるが、新たな取組みとして「北摂アーカイブス写真展」などを行い、好評を得た。今後も、多面的な広報活動を展開していきたい。

中項目「その他の運営の健全化への対応ははかれているか」（グラフNO5）は、引き続き評価ランク「4」である。図書館評価システムの確立によって、職員が図書館サービスの現状分析や自己評価に深く関わることに繋がっている。



グラフNO	中項目
(1)	経営・運営・管理状況に関する評価
1	図書館として適切な経営が行われているか
2	市民にとって質の高いサービスが提供されているか
3	市民参画による運営が図られているか
4	図書館の情報発信・PRは十分にされているか
5	その他の運営の健全化への対応ははかれているか

I-2. 中項目の点検結果

中項目 1. 図書館として適切な経営が行われているか

評価ランク 4

○自己点検の結果

人材育成について、職員研修所の研修支援制度を活用して「図書館司書専門講座」や「協働」「学校図書館教育」また今後の図書館システムやサービスの動向を考えるために、クラウドコンピューティングやデジタルアーカイブ、電子書籍に関わる研修など図書館の課題に即した研修に参加できた。また、図書館職員用の情報共有システムを活用し、研修記録を職員全体で共有している。

図書館の数、配置の適切さについては、広域利用によるサービスポイントの拡大と図書館の機能変更に取り組んだ。図書館未整備地域の市民の利便性向上を目指して、吹田市と市境の各3館において館を限定して広域利用の協定を締結。また、南部地域の利用状況等から施設見直しを行い、市の基本政策を踏まえ、庄内幸町図書館に「学校図書館支援ライブラリー」を設置する方向性を固めた。

項目 2. 市民にとって質の高いサービスが提供されているか

評価ランク 3

○自己点検の結果

平成22年度より4地域館の全祝日開館を実施したが、まだ広く認知されていないため、利用人数、貸出冊数の増加にはつながっていない。今後も市民への周知をおこない利用拡大に努める。

図書購入費が減少し、受入れ冊数が増加しない中ではあるが、書架整理、本の入替を行い蔵書新鮮度、更新率は若干好転している。総務省の地域活性化交付金「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用し、次年度の資料充実につなげることになった。

一方蔵書の亡失や切り取り、水ぬれなど資料の状態はあまり改善がみられないのが現状である。マナーアップキャンペーン等利用者に対する継続的な啓発の取組みを行っていく。

中項目 3. 市民参画による運営が図られているか

評価ランク 4

○自己点検の結果

平成22年度は図書館協議会において、「豊中市立図書館の課題解決支援機能について」前年度に引き続いて討議・検討していただいた。協議会は公開で開催し、議事録や資料をホームページ等で公開している。外部評価を行う豊中市立図書館評価検討委員会については、3年ごとの開催を予定しており、平成22年度は開催していない。

ホームページのアクセス件数は、図書館協議会については前年度より少なかった。これは、討議

の途中であること等が原因と考えられる。図書館評価検討委員会についてのアクセスは、目標値を大きく上回った。他の自治体からの問い合わせを受けることもあり、関心の高さがうかがえる。

今後も図書館の運営にかかわる情報を市民に公開し、市民参画の機会を大切にしながら、より効果的な図書館運営をすすめていく。

中項目 4. 図書館の情報発信・PRは十分になされているか

評価ランク 2

○自己点検の結果

市民及び行政内部への情報発信・PRについては、紙媒体と共にホームページ等を通じて実施している。豊中市立図書館ホームページのコンテンツとして「新聞記事検索」、また市役所の庁内情報システムサイト内の「庁内仕事応援サイト」テーマ別新着リスト等を定期的に更新しているが、全体として更新回数は目標値に達成していない。一方でメールマガジンは配信数、配信希望者ともに増加し、図書館の情報発信を担う手段となっている。協力する部局も増え、暮らしに必要な情報や震災などトピックを迅速に更新する体制が出来つつあるので、利用拡大に努めていく。

発行物の配布数は減少したが、「ええやん！しょうない」、「YA!BOOK通信」などは継続して発行している。利用者自らが日常の疑問を解決していくためのパスファインダー「検索ナビ」を作成し、配布していく予定である。

中項目 5. その他運営の健全化への対応は図れているか

評価ランク 4

○自己点検の結果

図書館運営の健全化への対応として、リスク管理及び個人情報保護等について講座やeラーニングによる研修を館長・係長・コンピュータ委員等が受講し、適正な管理に努めている。

蔵書の亡失対策に向けた取組については、マナーアップの取組みなどを含め、継続して対策に取り組んでいく必要がある。

また、リーディング項目について自己点検を毎年行うとともに、3年ごとの外部評価を通じ、図書館サービス全体の適正化を図っていく。今後とも、評価や説明責任という観点からも図書館評価システムを重視し、全館職員がその作業に関わることを通じて、図書館の使命と役割及び現状と課題を共有し、業務改善につなげて図書館運営に取り組んでいきたい。

Ⅱ-1. 図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価

中項目「市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できているか」（グラフ NO1）は、引き続き評価ランク「3」である。貸出冊数・登録人数はともに減少しており、インターネットや携帯サイトの活用により図書館の利用方法の変化が一因として考えられる。祝日開館を活かし、新たな利用者層を開拓していくことを目指す。

中項目「他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか」（グラフ NO2）は、評価ランクが前回の「3」から「4」となった。箕面市に加え、吹田市と広域利用の協定締結で、未整備地域の市民の利便性向上につなげることができたためである。

中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズに responding しているか」（グラフ NO3）は、評価ランクが前回「3」から「4」となった。連携が深まっていることや「庁内仕事応援サイト」開設による効果も一因として考えられる。

中項目「ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか」（グラフ NO4）は、評価ランクが前回の「2」から「3」となった。ITを活用した図書館サービスの機能強化によりその利用者は全体として増加しているが、e-レファレンス等まだ十分認知されていないものもある。利用しやすい環境づくり・広報活動に取組み、利用の増加につなげたい。

中項目「子どもの読書活動を推進しているか」（グラフ NO5）については、評価ランクは「3」であるが、「子ども読書活動推進計画 第1期実施計画」最終年度にあたり、図書館として着実に計画に沿って事業をすすめており、取組み全般として「4」に近づいている。

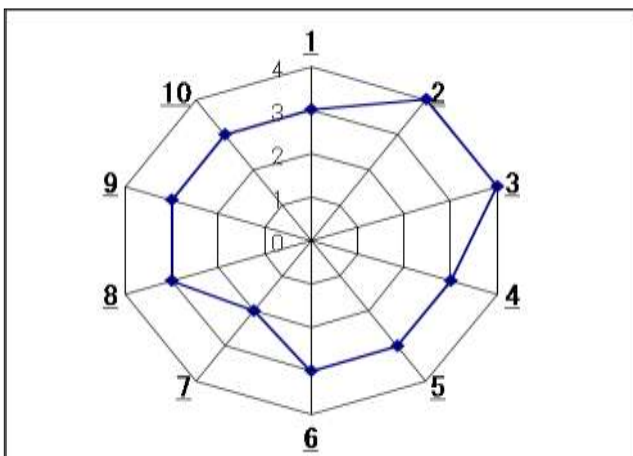
中項目「学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか」（グラフ NO6）については、評価ランクは「3」である。「とよなかブックプラネット事業」の進捗に合わせ、庄内幸町図書館の「学校図書館支援ライブラリー」において、モデルケースとして新たな支援を実施・検証していく。

中項目「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか」（グラフ NO7）については、引き続き評価ランクは「2」である。この項目については図書館が関連部局・施設や市民とともに取り組むべき課題が多く残されている。

中項目「地域の情報センターとして積極的に活動しているか」（グラフ NO 8）については、評価ランクが前回の「2」から「3」となった。「北摂アーカイブス」のホームページに多くのアクセスがあったことや、写真展を行ったこと等を反映したものである。

中項目「市民との協働事業を推進しているか」（グラフ NO9）については、引き続き評価ランクは「3」である。子ども読書活動推進計画については、「第1期実施計画」の振り返りをもとに、「第2期実施計画」につなげた。一方で、図書館における地域や市民との連携・協働のありかたを問い直す必要性も生じており、今後図書館職員はもとより市民や関係団体と、よりよい協働のあり方を共有するため、研修等を行っていききたい。

中項目「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか」（グラフ NO10）については、引き続き評価ランクは「3」である。読書会・おはなしボランティア・音点訳ボランティア等を含め、今後とも活動の支援を行っていききたい。



グラフ NO	中項目
(2)	図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価
1	市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できるか
2	他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか
3	市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様なニーズに responding しているか
4	ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか
5	子どもの読書活動を推進しているか
6	学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか
7	高齢者、障害者及び外国人の読書環境づくりをすすめているか
8	地域情報センターとして積極的に活動しているか
9	市民との協働事業を推進しているか
10	市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか

Ⅱ－２．中項目の点検結果

中項目 1. 市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できるか

評価ランク 3

○自己点検の結果

貸出冊数・登録人数はともに減少している。図書館利用の傾向が書架を見て関連資料をまとめて借りる利用から、ホームページ等の継続貸出手続き、インターネットや携帯サイトから必要な資料だけを予約しカウンターで借りる利用へ変化が伺える。図書購入費の潤沢でない現状では、リクエストや返却の多い館に新鮮な資料が留まらないよう、資料の入れ替えを行う必要がある。利用者にとって充実した魅力ある書架となるようCDなどのAV資料についても計画的に収集し、資料展示の工夫や検索ツールの充実などにも取り組み、一人でも多くの市民に利用される図書館をめざして、来館者・貸出冊数の増加につながるよう努める。また、岡町・庄内・千里・野畑図書館での祝日開館を活かし、新たな利用者層を開拓していくことを目指す。

リクエストサービスは、リクエスト総数、提供件数とも目標値を達成した。カウンターやOPACでの予約は、前年度からほぼ横ばいであるが、WEBでの予約の受付件数が増加した。通信環境や機器の普及にともなって、時間や場所に制約されない形が浸透し、今後も増加が予想される。ニーズにかなった資料提供を行うために予約内容を分析し、資料運用や選書等に反映させることで、より充実したサービスを提供できるよう努力する。

レファレンスサービスは目標値を達成し、簡易なレファレンスを含む資料案内数は増加している。チラシ等のPRの取り組みと件数把握に努めたことが、増加につながった。

平成22年度は調べるための道しるべとなるパスファインダー「検索ナビ」作成に取り組み、東日本大震災直後には特別版を作成配布した。

現在取り組んでいるレファレンス事例の集約をすすめ、図書館ホームページで公開へとつなげる。

中項目 2. 他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか

評価ランク 4

○自己点検の結果

近隣の自治体との相互協力について、広域利用の協定を結んでいる箕面市とは、どちらの図書館においてもそれぞれの市民の貸出冊数は増加しており、利用は順調に伸びてきている。さらに今年度は吹田市との広域利用の協定書を締結し、平成23年5月より豊中市の千里、東豊中、高川図書館と吹田市の千里、千里山・佐井寺、江坂図書館の各3館で、試行を開始する。これにより、未整備地域の住民の利便性向上につなげていく。

他の自治体についても府立図書館の相互協力車の巡回によって、スムーズな貸借が可能となり、貸出・借受冊数はともに増えていることなどから相互協力は順調であるといえる。

しかしながら、大学・類縁機関との連携については、まだ未着手の部分もあり、今後も公共図書館と大学図書館の連携事例をさらに研究しながら、新たな可能性を検討していく。

中項目 3. 市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズに responding しているか

評価ランク 4

○自己点検の結果

サービス指標の中に具体的に挙げられている各施設や部局に対しては、共催事業や講座等の定着により相互理解が深まり、細やかに連携がとれつつあると言える。数値目標から見ても移転等の特別の事情で極端に下がったものはあるが、おおむねどれも、目標値に達している。また、今年度本格運用を始めた市内LANを使った市職員向けの「市内仕事応援サイト」を活用して、これまであまり繋がりの無かった部局・団体に対しての働きかけも実施した。これにより共催事業が広がったが、図書館サービスに対する認知度はまだ低いと感じられる。引き続き市職員向けのサイト等による情報提供を通じ認知度を高め、他部局等と連携して市民サービス向上に努める。

中項目 4. ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか

評価ランク 3

○自己点検の結果

パソコン及び携帯電話からの予約件数や市民向けインターネット端末は利用が順調に増加している。しかし、e-レファレンス、新聞記事見出し検索及びOPAC（蔵書検索用利用者端末）の利用方法の案内等まだPRが十分でないため、メールマガジン等をはじめとする広報活動を行い、利用の増加に努めたい。また、ホームページ上でのYAコーナーやパスファインダー「検索なび」の紹介、レファレンス事例の公開等、内容を充実するとともに、職員のスキルアップを図り更新頻度を増やしていく。

利用者用のデータベースは提供数の減少にともない、利用人数も減少傾向にある。関係部局・施設とも連携し、地域の情報拠点としてビジネス・就労に関する情報提供に注力する。

ITを活用した図書館サービスの利用者は全体として増加しており、今後もより利用しやすい環境づくりを検討する。

中項目 5. 子どもの読書活動を推進しているか

評価ランク 3

○自己点検の結果

平成22年度は「子ども読書活動推進計画 第1期実施計画」最終年度にあたり、図書館として着実に計画に沿って事業をすすめた。4年間の振り返りをもとに「第2期実施計画」の策定につなげた。

子どもの貸出冊数はほぼ横ばいであるが、貸出人数は増加している。これは、子ども向け行事（とくに乳幼児向け）と一緒に参加する保護者への貸出も増えたこと。子ども読書活動推進事業が進み、地域のこども文庫・乳幼児施設・放課後こどもクラブ等との連携で利用が定着してきたこと。お散歩での来館を含め乳幼児施設への貸出が増加したことが挙げられる。

平成22年度には高川、東豊中においてヤングアダルトコーナー「YA!BOOKS」を設置し、YAサービスの全館的な取組みに向けて前進した。また、小児科医院へ赤ちゃん向けリストを持参し配布を依頼するなど新たな連携によるサービスを実施した。

今後は図書館職員の実践的な研修を行い、取組み内容の充実を図るとともに、地域の子育てに関わる関係者が集う校区交流会等に図書館からも参加し、地域の実情把握と課題の共有に努める。

「第2期実施計画」を踏まえ、一人でも多くの子どもたちに図書館を利用してもらえるよう取組みをすすめていく。

中項目 6. 学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか

評価ランク 3

○自己点検の結果

減少傾向だった貸出冊数・予約件数ともやや増加し、レファレンス件数は減少傾向が続いている。テーマに基づく資料集めなどで、一部件数に反映しきれていないものもあるが、レファレンスを経なくても、学校司書が必要な資料を特定して取り寄せ、活用されるようになってきていることの表れとも言える。また、学校図書館でも過去の事例によるノウハウの蓄積が進み、年々必要な資料を揃えたり、学校間での貸借も以前より行われている結果ではないかとも考えられる。

「学校図書館と公共図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境を整備することにより、児童生徒の読書活動を促進し、自ら学ぶ力を育成する」ことを目的とする、「とよなかブックプラネット事業」の概念設計を平成22年度に行った。平成25年度実施に向けて取組みを進めている。また、庄内幸町図書館に「学校図書館支援ライブラリー」を設置し、モデルケースとして新たな支援を実施・検証していく。

学校・学校図書館への支援・連携のさらなる推進に向けて動き出している。

各館と学校図書館の連携についても、引き続き、実情の把握と、サービス内容の充実に努めていく。

中項目 7. 高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか

評価ランク 2

○自己点検の結果

高齢者サービスについては、個人の貸出人数・冊数とも増加している。対象人口自体の増加に加え利用傾向に則した選書や、蔵書を手に取りやすい展示の工夫等を各館で試みた結果といえる。

団体貸出は、登録している団体においては利用が定着している。また、高齢者施設自体が増加しており、図書館への潜在的な需要は増してきていると思われる。施設利用者が集団で来館するなど、これまでとは違った利用形態が見受けられる。ニーズを踏まえた資料提供を行っていくとともに、登録団体数を増やすためのPRなども引き続き実施していく必要がある。

障害者サービスについては、デイジー図書の普及や、インターネットからダウンロードできる環境（「サピエ図書館」）整備が進む等利便性が向上している反面、ITになじみのない利用者にとっては、橋渡しの役割が重要になっている。潜在的な利用者の掘り起こしと細やかな情報提供が必要である。

多文化サービスについては、とよなか国際交流協会の協力で「世界のこどもの本の部屋」の言語別蔵書リストが完成した。平成21年度作成したコミュニケーションツール「指さし確認シート」及び多言語利用案内（7ヶ国語）とともに今後も活用していく。多言語資料の収集については購入だけでなく引き続き寄贈も募って行きたい。

中項目 8. 地域の情報センターとして積極的に活動しているか

評価ランク 3

○自己点検の結果

平成21年度の豊中市関連の新聞記事データベースの公開に加え、平成22年度は「北摂アーカイブス」に対し7万件のアクセスを得たことの意義は大きい。デジタル化されていない紙媒体の地域資料・行政資料についても、利用者がより活用しやすいようその整備に努める必要がある。

本の展示・紹介については回数が増えたことで、市民および市職員への情報提供の機会が増加し、情報センターとしての活動を進めたといえる。今後はさらに暮らしに役立つ情報提供に取り組んでいく。

人権啓発活動についても今後ともあらゆる機会をとらえ、その内容および方法を工夫し実施していく必要がある。

中項目 9. 市民との協働事業を推進しているか

評価ランク 3

○自己点検の結果

「しょうないREK」については「しょうないREKの歩みから協働事業を考える」など5周年記念事業を行い、5年間の活動の検証と課題などについて意見交換を行った。地域教育協議会・千里文化センター市民運営会議・北摂アーカイブスの取組みなど、市民や地域と協働して事業を継続実施しており、図書館が地域の「ひと」と「ひと」が出会う場所としての役割を果たすことにつながっている。

また、子ども読書活動推進連絡協議会の取り組みでは、「第1期実施計画」の振り返りをもとに、「第2期実施計画」につながっている。一方で図書館における地域や市民との連携・協働のありかたを問い直す必要性も生じており、今後図書館職員はもとより市民や関係団体とよりよい協働のあり方を共有するため、研修等を行っていきたい。

中項目 10. 市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか

評価ランク 3

○自己点検の結果

市民団体、ボランティアとも登録団体はほぼ横ばいである。会議数は増加しており、活発に情報交換がおこなわれている。読書会グループには資料リストを提供し、本選びの参考になり好評であった。また、おはなしボランティア活動については、貸出冊数が引き続き増加しており、「子ども読書活動推進計画」の成果があがっていると言える。点訳・音訳ボランティアの活動については、障害者をめぐる情報環境が変化しつつある現状を踏まえ、活動支援につながる研修をすすめたい。

集会室利用は増加しているが、今後は個々の活動支援にとどまらず、地域に還元されていくよう支援の在り方も課題となっている。

Ⅲ. まとめ

平成 22 年度の図書館運営の振り返りとして「評価システム」評価表「リーディング項目」について自己点検・評価を実施し、現状把握と業務分析・見直し等を行った。

全体として、前回の評価内容に記している【今後の取り組み】については、約 7 割が実施または一部実施しており業務改善につながったと考えられる。

1 の経営・運営・管理状況に関する評価では、「市民参画による運営が図られているか」と「その他の運営の健全化への対応ははかられているか」の項目に加えて、平成 22 年度新たに「図書館として適切な経営が行われているか」の項目について目標値を達成した。これは、人材育成において、国立国会図書館関西館からの職員派遣などを活用して図書館の課題に対応した計画的な研修に取り組んだ結果であり、回数、参加人数ともに増加している。また、「市民にとって質の高いサービスが提供されているか」の項目について改善が見られた。これは、4 地域館において全祝日開館を実施したことなどによる。一方で「図書館の情報発信・PR は十分にされているか」の項目については評価ランクが低下。これは、紙媒体での広報活動が減少したことなどによるが、新たな取り組みとして「北摂アーカイブス写真展」などを行い、好評を得た。今後も多面的な広報活動を展開していきたい。

2 の図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価では、「他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか。」「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様なニーズにこえているか。」の項目について目標値を達成した。これは、図書館未整備地域の市民の利便性向上のため箕面市に加え、吹田市と市境の 3 館に限定して広域利用試行開始の協定を結んだことによる。また、市内の公共施設との連携・協力は事業回数も増加し、一過性のものではなく定着した取り組みとなっているものが多い。「市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できているか。」「子どもの読書活動を推進しているか。」「学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか。」「地域の情報センターとして積極的に活動しているか。」「市民との協働事業を推進しているか。」「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか。」の各項目について平成 21 年度同様目標値は達成できなかったが、8 割以上の達成となっている。そして「IT を活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか。」の項目については改善が見られ、こちらも 8 割以上の達成となっている。これは、WEB での予約件数の増加等ホームページ上でのサービスや図書館内でのインターネット端末の利用が広まったことによる。一方「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか。」の項目については、前年同様目標の 8 割未満の達成に留まっている。潜在的な利用者の掘りおこしや、PR などに課題があるが、市民や他の施設との連携・協力により必要とする人に情報が届くよう取り組みをすすめていきたい。

評価に取り組む中で新たな指標設定や目標値の見直しの必要性も生じており、今後の検討課題である。また、全庁的に取り組んでいる総合計画に関わる評価や教育に関する評価との連動も視野に入れながら、効果的・効率的なシステム運用を行なっていく必要がある。

評価内容を公表することで、図書館のめざすべき方向性とその達成状況や課題について、職員はもとより市民や関係団体・部局とも共有できるよう取り組んでいきたい。

4. 今後の方向性

豊中市立図書館評価システムのマネジメント

(1) 今後の評価基準

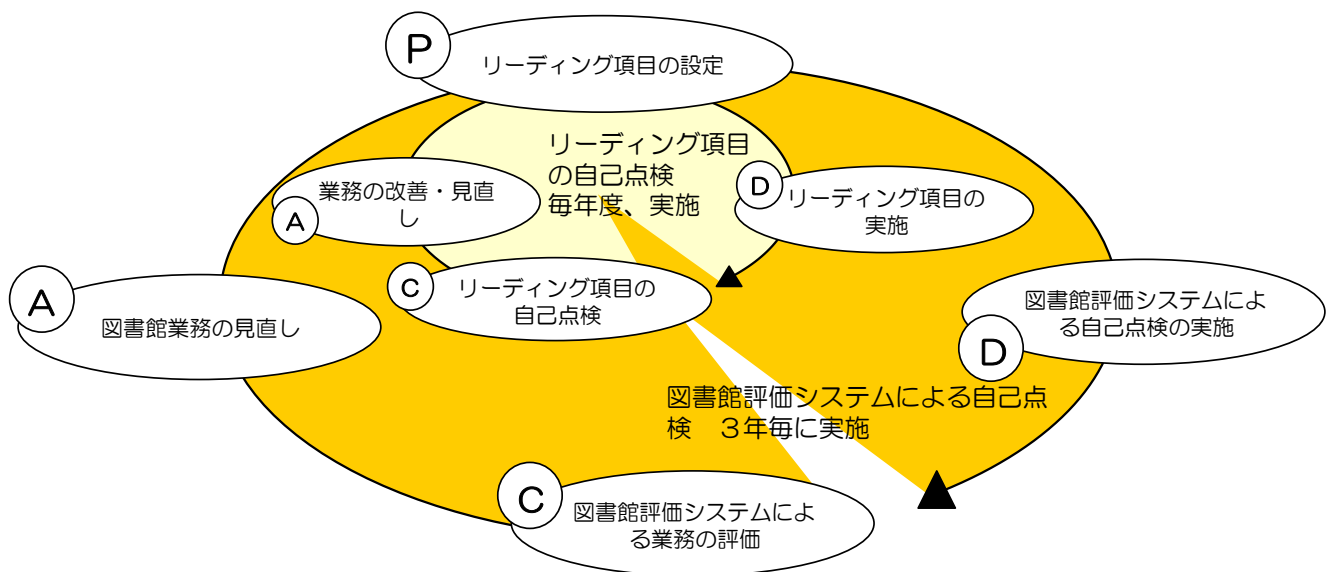
平成23年度以降の中項目・小項目の評価の方法は、各項目の達成状況に応じて、次の5段階の数値で表す。評価を数値化し、可視化することにより、達成状況の的確な把握と評価、対策の検討に役立てていくものとする。

評価 ランク	評価基準
5	業務の目標指標を1割以上、超えた。
4	業務の目標指標以上であった。
3	業務の目標指標の76%（（貸出冊数の全国平均）／（貸出冊数の豊中市））以上であった。
2	全業務の目標指標の75%以下であった。
1	取り組んでいない。

※中項目・小項目によっては、定量ではなく定性によって評価を実施しているものがある。それらについては、上記の評価基準に準じて、評価を行うものとする。

(2) 本評価システムのPDCA サイクル

本評価システムに基づく自己点検は、3年に一度、実施する。また、別途、定めるリーディング項目は、毎年度、進捗状況の自己点検を行なう。



豊中市立図書館評価システムのPDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクル